アルミ製品・伸銅品・非鉄スクラップ

関西市場 2024年展望

アルミニウム製品流通、伸銅品流通、非鉄金属スクラップ問屋の各業界は、伸銅品・アルミ圧延メーカーと顧客との橋渡し役や金属再資源化（静脈産業）において、極めて重要な役割を担っている。新型コロナウイルス感染症の影響は、昨年5月の5類感染症移行で一応の区切りがつき、事業活動の足かせもなくなった。ここでは関西地区での3団体トップ、竹内成介大阪軽金属商協会会長（三和金属会長）、久野実大阪伸銅品問屋組合理事長（久野産業社長）、橋本健一郎関西非鉄リサイクル協同組合理事長（橋本アルミ取締役）の3氏に「2024年における各業界の課題と展望」を聞いた。（白木　敏視）

大阪軽金属商協会
竹内 成介会長
（三和金属会長）

メーカーと需要家の間に立ち使命果たす
「大阪・関西万博」需要に期待

――23年のアルミ流通業界の回顧から。

「大阪軽金属商協会（略称＝大軽親睦会、会員数154社）として23年（暦年）の需要を振り返れば、自動車関連は比較的堅調に推移。とくに『機出北ヤード』の物流需要は昨秋あたりから盛り上がってきた。ただ建材需要は低迷した。期首の2025大阪・関西万博」需要も出荷されている。具体的な数字で示すと、23年上期（4～9月期）のアルミ圧延品国内需要量は前年同期比5％増の16万7千㌧となった一方、流通向けが同5％減の2万9千㌧、輸送機器（自動車を除く）、船舶・航空機・鉄道車両（同11％減の1万㌧だった）工業の2社に加わっていただいた」

――今年1～3月ベースの地金価格は前年同期に比べ、24年の仲銅品問屋組合との合同懇親会の講演の課題は須田徹一「一番期待するのは日銀の『大阪・関西万博』報道だ。本格的には日経の最初の万博」報道だ。本格的には日経の最初の万博」報道だ。復活がささやかれ始めている。24年は一年を通して高値を維持した。24年1月初時点の価格（銅建値はトン1225万円、黄銅棒（棒線）は同861円で、これらの価格は過去最高水準を維持している。

――需要の展望は。

「取扱数量が急増する分野はないが、自動車、船舶、航空機、鉄道車両、建設機械の需要がそれぞれ堅調に推移しており、流通マージンが確保しにくくなっている。『2024年問題』は待ったなしに対応しなければ、人件費・燃料費・エネルギーコストが急騰し、この加工賃改定は理解できる。なかで、これだけ難業にあるとき売りづらい。目先に、我々流通業における努力できる分野は、原価低減に取り組むことだと思う」

――24年の展望を。

「今年の市況は、昨年と違って、半導体製造装置関連、電気自動車（EV）、スマートフォン向けの水素には戻っておらず前年比でも割高で、価格は低調で